

本日の為替見通し

ポイント

ラガルド IMF 専務理事は、「日本は公的債務を減らす信頼に足る計画を避ける道はない」と語った。

終値で EURUSD は 1.3 台、EURJPY は 100 円台を回復した。ベア派にとっては絶好の戻り売りの場を提供してもらったとの思いで、短期投機筋にはこの思考が多いと思われる。ギリシャ政府と債券保有者の債務交換交渉も決まらず、S&P のフランス銀行の格下げ実施や、フィッチのユーロ圏 6 カ国の 1~2 段階格下げ圧力を受けながらも、不思議と EUR 買いの流れは強く続いている。

ブル派にとっては、S&P の格下げの決定もギリシャ債務交換交渉の決着も時間の問題で、すでに織り込み済み。EURUSD の下値の備えも十分で、クレジット・デリバティブ市場のスプレッドは大幅に縮小し、米国の QE3 の可能性も残り押し目買いを睨むとの判断と思われる。

このような状態では、レベル感によるショートポジションが増えやすく、結果的に押し目での買いが厚くなり、上値でテクニカルポイントを抜けてくると、さらなる買いになるケースもでてくる。セオリーから言えば、短期投機筋がブルになりポジションがショートからロングに転換した時が、要注意となるが、まだ、その流れも見当たらない。また、セオリーから言えば、今までの売り要因が消化された後に、新たな材料が市場に提供されれば、大幅な売りになるのだが……。

市場参加者が EUR に釘づけになっているうちに、AUDUSD は 1.05 台を達成、AUDJPY も 81 円台を達成、金価格の上昇と中国の影響を受けながら、利下げ観測が強まる中でも、上昇を続けている。CAD ドルもドル高の影響をうけながらも、USDCAD は 1.01 を割り込み、最近のレンジの下限を試し、こちらの攻防も大いに興味をもてる。

USDCHF も終値で 0.93 を割り込み 0.9251 で終了、12 月 12 日以来の水準まで値を下げている。EURCHF はスイス中銀のターゲット 1.200 を直前に捉え、1.2060 台を底値に終値ベースでは 7 日間連続で 1.20 台で終了、スイス政府・中銀の介入の影に怯えながらも、下値リスクへの警戒感も残る。

本日は、引き続きギリシャ債務交換交渉の合意の有無と内容。EU 財務相理事会での合意内容。米大統領一般教書演説が注目される。それが終われば、25 日の米 FOMC と、27 日の米第 4 四半期 GDP へ焦点が移ってくる。

マーケット・レベル



EURUSD(日足) = 25 日指数移動平均線は 1.2928、この線を上抜け買いの流れが続いている。DOPup=1.3095、DOPdn=1.2444。スロー・ストキャスティックは %K=79.36、%D=61.98、買いを継続し、ベースは買われ過ぎゾーン。

EURJPY(日足) = 25 日指数移行平均線は 99.73、この線を再び上抜け買いになっている。DOPup=100.63、DOPdn=95.95。スロー・ストキャスティックは %K=77.28、%D=59.95、買いを継続し、ベースは買われ過ぎゾーン。

USDJPY(日足) = 25 日指数移動平均線は 77.13、終値ではこの線を上限に上げ止まっている。DOPup=78.81、DOPdn=75.74。スロー・ストキャスティックは %K=52.63、%D=45.29 で、買いへ変化し、ベースはニュートラルゾーン。

本日のCFD見通し

ポイント

EU 外相理事会は、米国に歩調を合わせイラン制裁措置を正式に発表した。経済に打撃を受けるイランはホルムズ海峡の封鎖との警告を発し、米国に続き、フランスや英国も艦艇をホルムズ海峡に派遣、米空母はホルムズ海峡に入ったとの報道もある。EU の制裁実施は7月とまだ若干の余裕はあるものの、米国の圧力にイラン産原油を引き受ける国も限られている。この発表にも原油相場はすでに織り込み済みなのか、買いの反応は鈍く、逆に利食いの売りが目立ち上値は重くなったが、金価格は実需の買いも続き、ギリシャ債務交換交渉も結論が持ち越され、買い材料にもされたが、ドル安の流れが金と原油価格をサポートし、クレジット市場を見ているとリスク資産の拡大がしている可能性も残る。

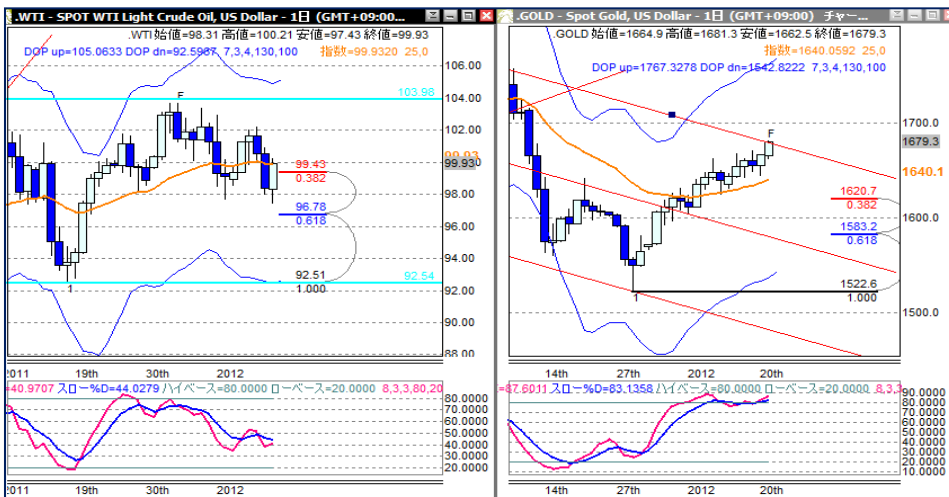
◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

EMA は 99.92 でこの水準を上限に伸び悩んでいる。ストキャスティクスは売りを継続しているが、買いへ変化する可能性も残り、今ひとつはっきりとしないが、EMA を超えてくると、金価格の買いに歩調を合わせ買いのセンチメントが強まることが予想される。上値のターゲットは 103.98、104.93。下値のターゲットは 98.78、92.51~54。

◎Spot.Gold

EMA は 1640.03 でこの線を下限に上昇が続き、ストキャスティクスも買われ過ぎゾーンで長く停滞し、トレンドのある相場を示している。長い下降ラインの上限に近付いており売りが強まる可能性もあるが、本日も買いが続き上限をブレイクすれば、本格的な買いの流れに入る可能性も出てくる。上値のポイントは 1681.3、1760.46。下値のポイントは 1640.03、1620.7。

マーケット・レベル



Spot.WTI (Light Crude Oil) (.WTI 日足) = 25 日指数移動平均線は 99.92、終値ベースでこの線を上限に下げ止まっている。DOPup=104.93、DOPdn=92.45。スロー・ストキャスティクスは%K=40.97、%D=44.03 で売りへ変化しているが不透明、ベースはニュートラル。

Spot.Gold (.GOLD 日足) = 25 日指数移行平均線は、1640.03、この線を下限に上昇が続いている。DOPup = 1760.46、DOPdn = 1536.14。スロー・ストキャスティクスは%K=87.36、%D=83.06 で売り買いが交錯、強いトレンドの影響なのか売りにならず、ベースは買われ過ぎゾーンで停滞。

1月24日(火曜日) 注目の経済指標 その他

注目されている発言・その他

- ◎米連邦公開市場委員会(25日まで) ◎米大統領一般教書演説 ◎EU 財務相理事会(ブリュッセル) ◎スペイン短期証券入札(18:30)
- ◎トルコ中銀政策金利(21:00) ◎ハンガリー中銀政策金利(22:00) ◎ゴンザレス・パラモ ECB 専務理事(講演)
- ◎インド中銀四半期金融政策見直し ◎日銀 金融政策発表

注目されている経済指標

- ◎ドイツ、ユーロ圏、フランスの各種 PMI の発表
- ◎カナダ 11月 小売売上高

1月24日(火曜) 本日の主な経済指標と発表予定

8:00	AUD 11月 コンフェランスボードけき先行指数=予想 前回 0.6%
17:30	GER 1月 製造業 PMI・速報=予想 48.8 前回 48.4、サービス業 PMI・速報=予想 52.0 前回 52.4
18:00	EUR 1月 製造業 PMI・速報=予想 47.0 前回 46.9、サービス業 PMI・速報=予想 48.7 前回 48.8、総合 PMI・速報=予想 前回 48.3
18:30	GBP 12月 公共部門純買入所要額(PSNCR)=予想 前回 106億ポンド、公的部門純買入額(除く金融介入)=予想 152億ポンド 前回 181億ポンド、公共部門ネット負債=予想 前回 152億ポンド
19:00	EUR 11月 鉱工業新規受注=前月比予想 前回 1.8%、前年比予想 前回 1.6%
22:30	CAD 11月 小売売上高=前月比予想 0.2% 前回 1.0%、除自動車前月比予想 0.1% 前回 0.7%

昨日(1月23日)の海外市場の動き

EURUSDは1.3台を、EURJPYは100円台を達成AUD1.05台へAUDJPYも81円台へ上昇した。EUR(EURUSD1.2875→1.3052)、AUD(AUDUSD1.0458→1.0573)、CAD(USDCAD1.0159→1.0052)は上昇。

◎ドイツはESMとEFSF併用を容認、EUR買いの流れが強まる

ユーロ圏財務相会合の中心議題は、①救済基金、②ギリシャの債券保有者の新提案、③ドイツが主導する赤字抑制への条約となっていた。救済基金では7月から始まる恒久基金の欧州安定化メカニズム(ESM)と現行の暫定的な欧州金融安定ファシリティ(EFSF)の併用は、反対していたドイツが軟化し合意される可能性が強まり、資金規模は7500億ユーロに拡大され、ECBがIMFへ拠出する1500億ユーロと合わせ7500億ユーロの資金を確保できることになる。ラガルドIMF専務理事はIMFの資金を拡大し計5000億ドルを目指し楽観視している。

◎ギリシャ債務交換交渉はいまだに合意に至らず

ギリシャ債務交換交渉はいまだに合意なく、ユーロ圏財務相会合に入った。ギリシャは3月20日に総額145億ユーロ規模の国際償還期限が迫り、債務交換交渉をまとめ、トロイカ調査団の調査を終え、ギリシャ第2次支援の実施を急ぐ必要に迫っていた。民間債権者を代表する国際金融協会(IIF)ダラーラ専務理事は、債務減免で最大限の提案をしたと語り、合意が目の前に迫っているとの発言も多く流れた。結局のところタイムリミットは2月13日とのことで、これを期限に相場の変動要因が残った。

◎ドイツ、フランスの短期債入札はまずまずの結果にも、相場の反応は鈍い。

◎カナダ12月の景気先行指数は予想を上回り、CAD買いの流れが強まった。

◎ユーロ圏1月の消費者信頼感指数は予想よりマイナス幅が縮小し、EURUSDの最高値の達成の引き金となった。

◎EU外相理事会は、イラン産原油の禁輸で合意し7月1日から全面禁止となった。

USDJPY

アジア市場は、76.94で取引が始まり、76.90以下の実需の買いに支えられ、76.92を底値に、先週末の海外市場の安値76.91を割り込むこともできず、77.07まで上昇、大枠77.00~07の狭いレンジで取引が続いた。欧州市場に入っても上値77.07を超えることはできず、EURJPYの売りも入り再び下落、77.00以下のストップロスの売りを付け76.90割れまで下落、大枠76.87~93のレンジで取引が続いた。米国市場では、CADJPY(景気先行指数が強く76.13→高値76.62)+EURJPY(99.40→高値100.48)など、クロス円売りが加速し、77.05まで上昇したが、77.00超えの売りは続き、76.88まで再び下落、大枠76.85~00で上下狭いレンジに終始した。

EURUSD

ギリシャ債務交換交渉の決着を見ることはできず、オセアニア市場では先週末のNY市場の終値から大きく値を下げて取引を開始、アジア市場では1.2886で取引が始まり、1.2875を底値に大枠1.2880~05のレンジで売り買いが交錯した。欧州市場に入り、EURGBPの大口買いに1.2940台まで上昇(EURGBP0.8290台→0.8350台へ上昇)、独短期債入札の直後には、ドイツがEFSFとESMを併用の実施に反対せずとの報道に、1.2950越えのストップをつけ1.30台まで上昇し、EURJPYは100の大台を超えた。米国市場に入って、ユーロ圏の消費者信頼感指数が強く1.3050台まで上昇し、ようやく買いの流れも終わり、1.3000の大台を維持し大枠1.3000~20のレンジで取引が続いた。

AUDUSD

オセアニア市場ではEURUSDの下落にも同調せず、先週NY市場の終値とあまり変わらず1.0477で取引を開始、EURUSDの下落や豪第4四半期の生産者物価指数が予想を下回り、1.0460割れを試す動きが続いたが、失敗。幅広いAUD買いの流れに1.0490台まで上昇した。欧州市場に入っても買いの流れは止まらず、EURUSDの上昇がリードし1.0560台まで上昇、大枠1.0540~65のレンジで取引が続いた。米国市場に入り、EURUSD主導の流れに1.0573まで上昇したが、利食いの売りに1.0516まで下落、大枠1.0525~35のレンジで取引が続いた。

金・原油価格

- ◎英デリー・テレグラフ紙、英国とフランスはイランがホルムズ海峡の閉鎖の警告の中で、米国に続き艦艇を派遣する
- ◎米商品先物取引委員会(CFTC)データ、トレーダーの持ち高が11月以来の高水準に達し、買い越しは過去2カ月間で最大の増加率
- ◎欧州連合(EU)声明、イラン産原油の輸入禁止措置を7月1日までに段階的に発動することで合意。イラン中銀が欧州内に保有する資産や事業体8つの資産を凍結、金・貴金属・ダイヤモンド・石油化学製品の取引を禁止
- ◎イラン産原油禁輸措置で英仏独の共同声明、イランは国際的な責務を果たすべき。交渉の用意はあり、テーブルに着かない限り制裁は強化される
- ◎シリア政府、アラブ連合がアサド大統領に求めた副大統領への権限譲渡案を拒否
- ◎欧州連合(EU)、シリアで弾圧が続く限り、政権に追加措置を科す政策を継続する

◎Spot.WTI(Light Crude Oil)

アジア市場では、取引開始直後の98.31を高値に、ギリシャ債務交換交渉の決着を見ることはできず、EURUSDの流れに97.50近くまで下落、EURUSDが持ち直すと98.10台まで上昇98.00を中心に狭いレンジで取引が続いた。欧州市場は、97.58を底値にEU外相会議を気にしながら、EURUSDの上昇にリスクアセットの買いが強まり、98.50を超え買いが加速、ドル安の流れが強まる中で99.00まで上昇、大枠98.80~99.50のレンジで取引が続いた。米国市場では、EURUSDの買いに連動し99.78まで上昇、一時98.77まで値を下げたが、シリア問題、イラク制裁措置によるイランの往復措置の影響を危惧しながら100を超え100.21まで上昇した。

◎Spot.Gold

アジア市場では、1664.9で取引が始まり、1662.6を底値に実需筋の買いも強く1673まで上昇した。欧州市場は1666.5を安値にギリシャ債務交換交渉に進展が見られたとの報道や、EURUSDの上昇に1677.4まで上昇、これを高値に大枠1672~77のレンジで取引が続いた。米国市場に入ると一時1666.7まで値を下げたが、原油価格の上昇やドル安の流れに1681.3まで上昇、大枠1674~78のレンジで取引が続いた。

昨日(1月23日)の主な発言・出来事

欧州関連	
フランス国債庁(AFT)	◎フランス国債を中銀や新興市場国の政府系ファンドが購入 ◎S&Pの格下げは投資家の予想範囲内で買入コストの上昇になっていない
スペイン中銀	◎2011年GDPは前年比0.7%、2011年第4四半期、前期比-0.3%、前年比0.3%、2012年GDP予測は前年比-1.5%、2013年GDP予測は前年比0.2%
ドイツ1年債入札	=25.4億ユーロ発行、目標額は最大30億ユーロ、平均落札利回り0.07%(前回0.346%)、応札倍率2.2倍(前回4.3倍)
ドイツ連銀月報	◎ドイツ経済は昨年第4四半期には停滞したもようで、若干のマイナスの可能性も ◎2012年GDP予測0.6%、2013年GDP予測1.8%
独CDUバーセル議員	◎ドイツ政府はEFSFとESMの両基金を平行稼働させる案を話し合っている
複数の政府当局者	◎ドイツ政府は7月から稼働するESMとEFSFの合わせた資金力の上限を5000億ユーロから引き上げることに反対しない可能性
ザイベルト独政府報道官	◎EFSFとESMの両基金を平行稼働させる問題をEU手法会議で議論される可能性がある
ラガルド・IMF専務理事	◎より大きなファイアウォールが必要で、なければイタリア、スペインなど債務返済が可能な国が異常な調達コストにより支払い危機に追い込まれる
トレイナー欧州委員会報道官	◎EUが協議している金融取引税の導入は加盟する27ヶ国全てが対象となる
バイトマン独連銀総裁	◎ドイツ経済は2012年中に成長は回復する見込み ◎現在は一時的な軟調局面 ◎ドイツ経済は基本的に好調
ラガルド・IMF専務理事	◎IMFの融資能力の増強が必要 ◎世界はリセッションに回避で決定的な時期にある ◎米国の回復は弱く失業率は高い ◎日本は公的債務を減らす信頼に足る計画を避ける道はない ◎中国の消費主導へのシフトは世界経済に貢献 ◎ECBは一段の金融緩和をすべき ◎救済基金の増額と財政リスク分担を欧州に呼び掛けた
ハンガリー政府高官	◎ハンガリーへの支援はEU、IMFと3月か4月で合意に達する可能性 ◎支援額は170~200億ユーロの見込み
メルケル独首相	◎財政規律は今後のユーロにとって重要
フランス短期債入札は順調に消化	◎総額82億ユーロ発行、目標額は70~83億ユーロ、13週間物45.05億ユーロ、利回り0.174%(前週0.165%)、応札倍率2倍超。50週間物、22.04億ユーロ、利回り0.448%(前週0.406%)、応札倍率2.951倍(前回3倍近く)、24週間物、14.93億ユーロ、落札利回り0.267%(前週0.281%)、応札倍率3.237倍
S&Pフランス銀行などを格下げ	=フランスの預金供託公社を「AAA」→「AA+」、クレディ・リヨネを「A」に引き下げ、クレディ・アグリコルを「A」に引き下げた。

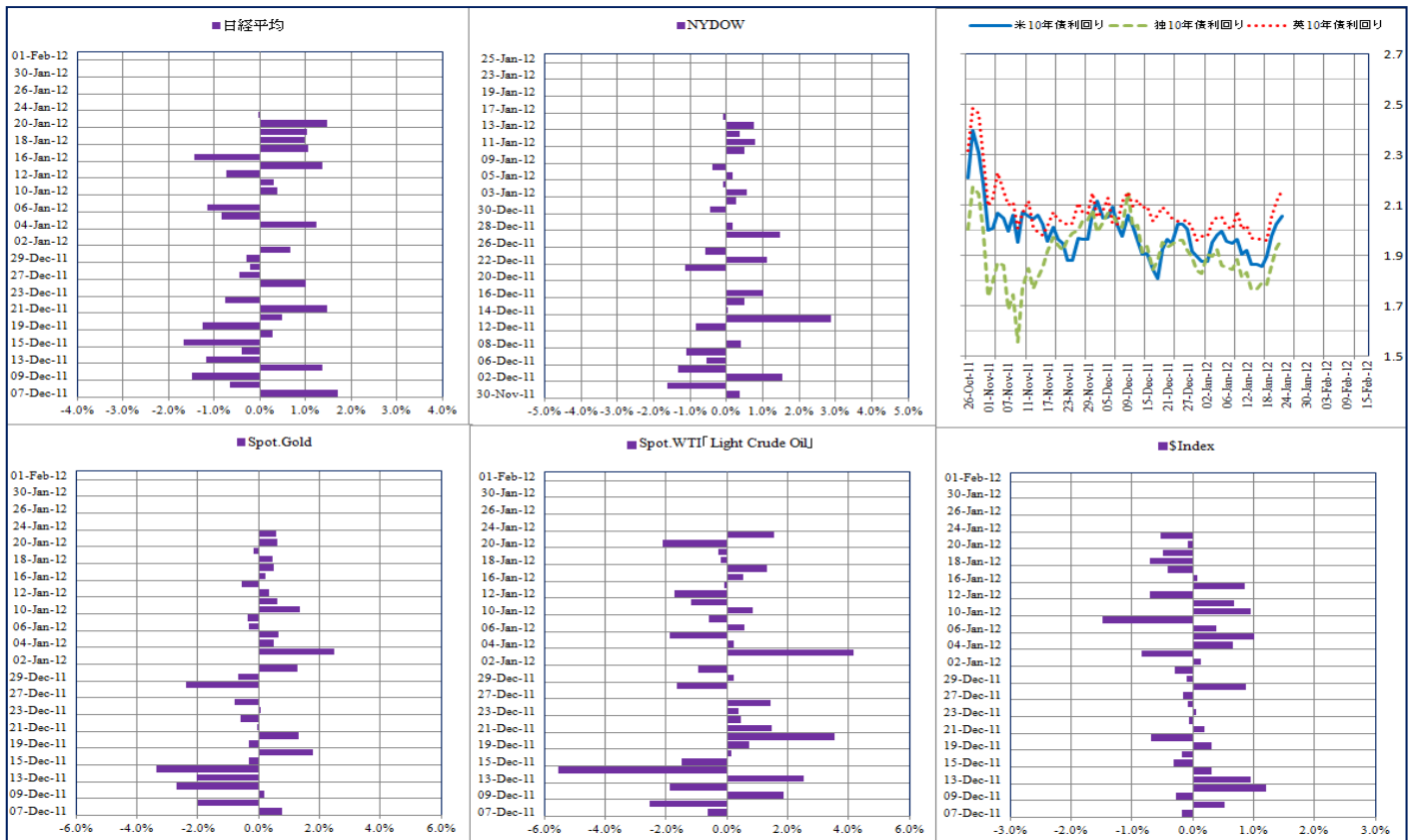
	ギリシャ関連
	ダラーラ国債金融協会 (IIF) 専務理事 = ◎先例のない自発的な民間投資家の関与 (PSI) は、条件が整いつつある
	EU・IMF・ECB のギリシャ訪問団 (独ビルト紙) = ◎ギリシャの政権状態に動揺した
	独財務省とパロワン仏財務相 = ◎ギリシャ債務交換交渉は実質的な進展が見られた
	国際金融協会 (IIF) ダラーラ専務理事 = ◎債券保有者側は債務減免で最大限の提案をした
	メルケル独首相 = ◎ギリシャ債務交換交渉は滞りなく完了すると予想 ◎民間債権者との交渉と新たなギリシャ向けプログラム協議は同時に完了することは可能 ◎合意しつなぎ融資の必要も生じないと思う
	ベニゼロス・ギリシャ財務相 = ◎債務交換交渉は遅滞なく完了すると明言
	ギリシャ財務当局者 = ◎ギリシャは債務交換交渉の最終案を 2 月 13 日までに提示することを目指している

OTH	VIX 指数は過去最大の低下 = ◎シカゴ・オプション取引所 (CBOE) のボラティリティ指数 (VIX) は 18.28 と最安値 10 月 3 日以降の下落率は 60% と過去最大の下落を記録 ◎株安の備えを求める投資家の減少を反映、市場の危機的リスクが過去のものとなったことを示唆
CHN	ルービニ氏 = ◎今年の中国経済成長は、かなり減速する ◎住宅部門は縮小傾向で輸出の伸びも鈍化 ◎政府当局が金融・財政面で刺激策をとらなければ、成長率は 8% を相当下回るリスクがある
CHF	シュナイダーマン・スイス経済相 = ◎スイスフランは中期的に EURCHF で 1.40 前後に軟化の見通し ◎スイス中銀の辞任とは関係ないが、一部ユーロ圏諸国の格下げで不透明感が高まり、スイスフランに資金が向かっていた
GBP	ポーゼン英中銀委員 = ◎今後の見通しにより、2 月に量的緩和を拡大することになる ◎インフレは急速に低下し、2013 年にかけてその流れを継続 ◎政府の緊縮財政による歳出削減が景気にブレーキをかけている

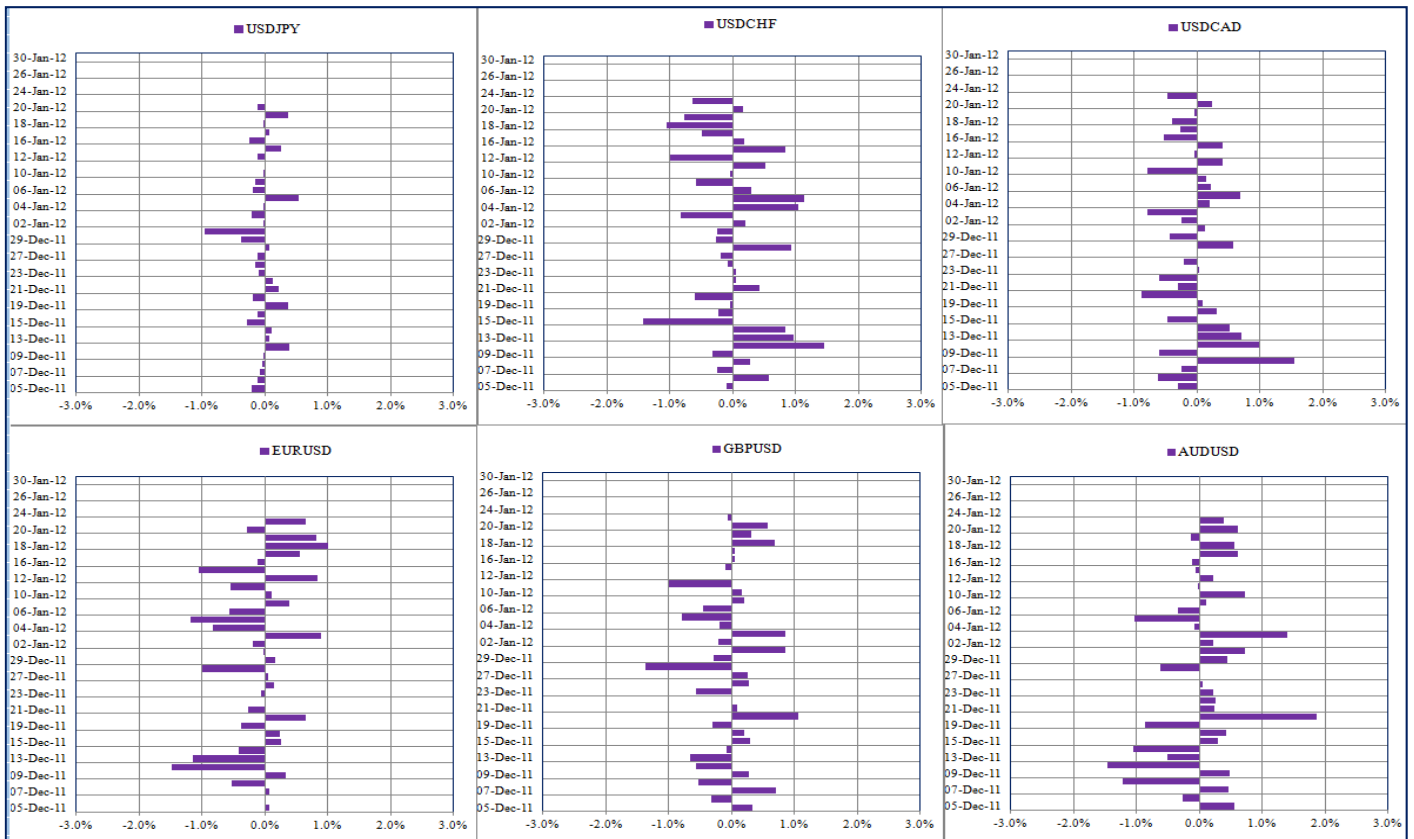
昨日 (1 月 23 日) の経済指標と結果

9:30	AUD 第 4 四半期 生産者物価指数 = 前期比 0.3% (予想 0.4% 前回 0.6%)、前年比 2.9% (予想 3.0% 前回 2.7%)
22:30	CAD 12 月 景気先行指標指数 = 前月比 0.8% (予想 0.6% 前回 0.9←0.8%)
0:00	EUR 1 月 消費者信頼感 = -20.6 (予想 -21.4 前回 -21.3←-21.1)

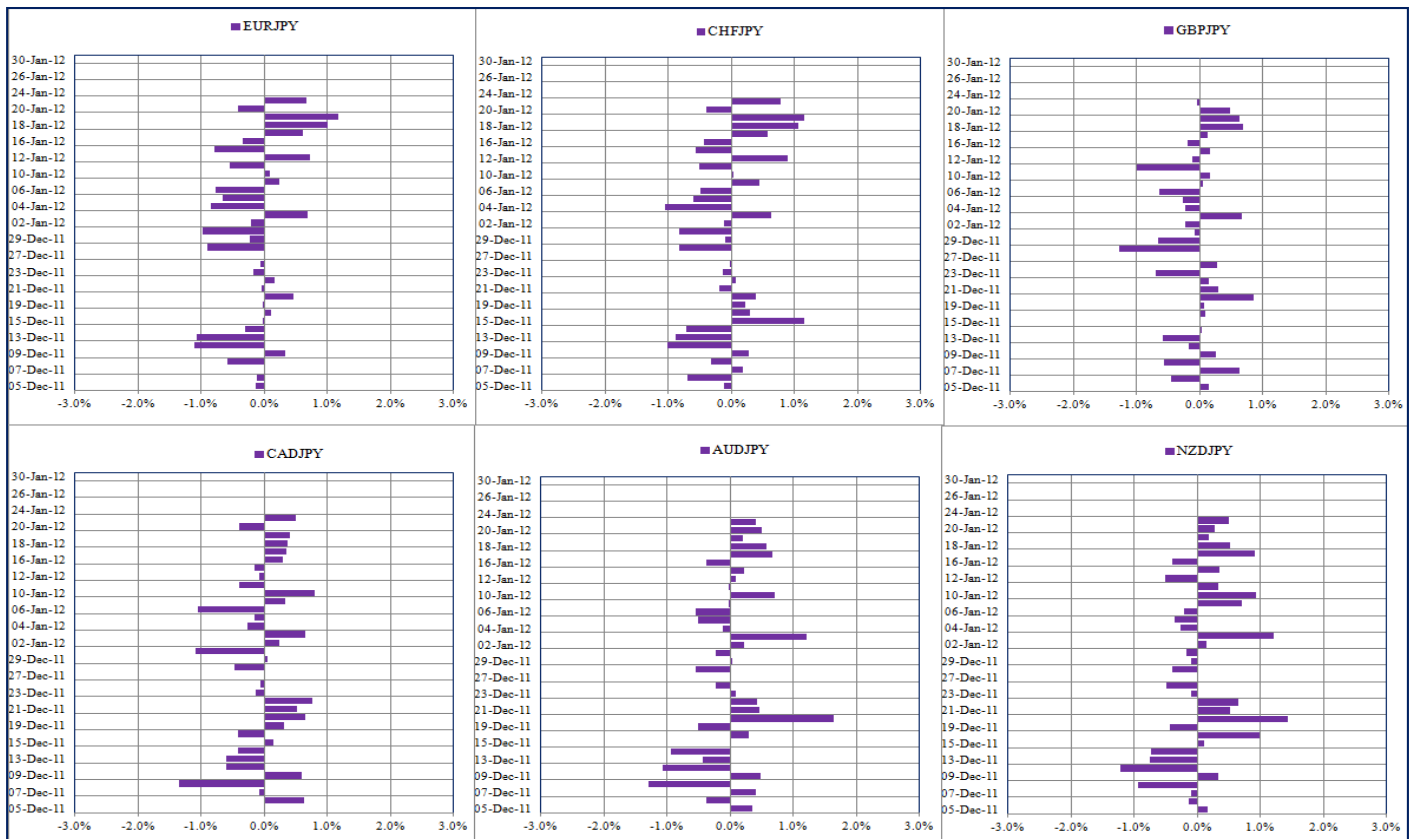
日経平均株価・NYダウ平均株価・SpotGold・SpotWTI・\$Index の(Daily 変動率)、10年債利回りの Daily 推移と比較



主要通貨の Daily 変動率 (%)



円クロスの Daily 変動率(変動率)



USD=米国、JPY=日本、GER=独、GBP=英国、CAD=カナダ、AUD=豪州、NZD=ニュージーランド、
CHF=スイス、NOK=ノルウェー、SEK=スウェーデン、CHN=中国、FFR=フランス

本レポートで言及している市場予想の出所=fx360.com,ロイター社。各国経済指標・日時の出所=fx360.com ロイター社

外国為替保証金取引(FX)及びCFDには、高いレベルのリスクが潜在しており、全てのお客様に適した投資商品とは言えません。高いレベルのレバレッジは、利益ももたらしますが、損失ももたらします。預託した資金を超えて損失を被る可能性もあるため、損失に耐えられない金額を投資するべきではありません。過去のパフォーマンスが、必ずしも将来の結果を示唆しているわけではありません。

本レポートの内容は

- 情報提供の目的にのみ供されるものとし、いかなる投資商品の提供・勧誘その他法的に拘束され得る行為、また、それら投資商品の推奨、助言等を意図したものではありません。
- マーケットに関する意見・予想はその正確性や完全性についてそれらを保証するものではありません。
- レポート著者の予想・意見は必ずしも、弊社及び弊社関係者の見方を反映したものではありません。
- 筆者によって提供される市場に関する如何なる予測や見解についても、その正確性が検証されている訳ではありません。
- 当社は本レポートの内容に依拠してお客さまが取った行動の結果に対し責任を負うものではありません。

GFT はお客様への一般的な情報として本資料を提供していますので、投資判断を行う際の詳細な独自調査に代えて本資料に依拠することはお控えください。

GFT は、本資料に含まれる情報に基づいた投資の結果として発生した損害に対して、如何なる責任も負いません。また、投資、法律、会計、税務、またはその他の専門的助言についても、一切提供することはありません。これらの専門的助言が必要な場合は、専門家にご相談ください。

同支店は、日本においては、グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッドとして第一種金融商品取引業者登録(関東財務局長(金商)第268号)および商品先物取引業者許可を取得しており、社団法人金融先物取引業協会および日本商品先物取引協会の加盟業者です。www.gftforex.co.jp

© 2011 グローバル・フューチャーズ・アンド・フォレックス・リミテッド 著作権/著作権所有。無断複写・複製・転載を禁ず。

CD08J.005.113011